ついじまつ

COMMUNICATION

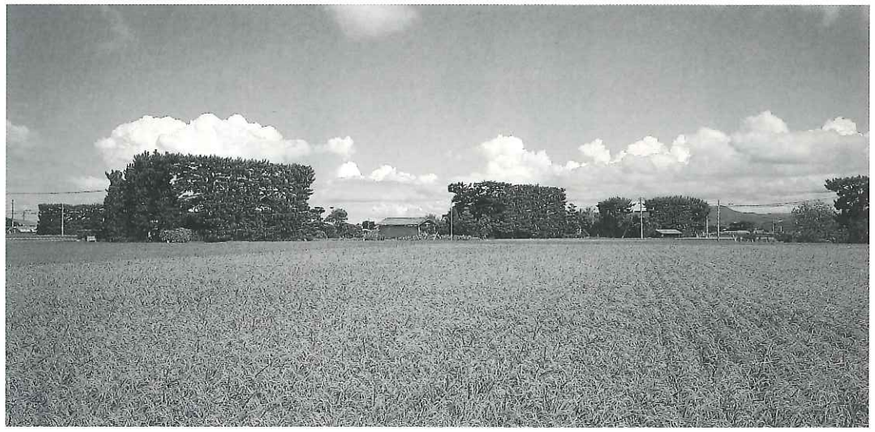
ついじまつコミュニケーション：築地松情報誌1998.9月　　発行ー築地松景観保全対策推進協議会

第7号

築地松物語

やさしく、懐かしい、日本のふるさと

forever がここにあるから。



出雲平野では、一軒一軒がばらばらに点在して散村を形成している。孤立した農家は、洪水を防ぐために屋敷まわりに土手(築地)を造り、この盛土の上に最初は広葉樹を、のちに潮風に強い黒松を植えていった。それらは、北西からの強風を防ぐ役割をもつ防風林となり、燃料や日よけとしても利用され、後には剪定(陰手刈り)されて農家の風格を表すようになった。ワラ葺き・カヤ葺き屋根の農家は、出雲独特の反り棟、そして箱棟に変わり、後に灰黒色の瓦となった。現在は石見瓦(茶色)が採用され、散村の風景が明るくなっている。築地松のある風景は、春は色鮮やかなチューリップ畑と新緑、夏は水田に写る「さかさ築地松」、秋は黄金の穂波を前景とした松並み、冬は夕映え白銀の幻想的な姿をなし、田中の道路を出雲大社や一畑薬師詣りに急ぐ旅人の旅情を誘う美景である。しかし、その風景はもともとは情緒的で観光的な対象物ではない。出雲平野は、深田米作の際、吸血虫による肝臓病の流行や、裏作のための高畦式耕作など苦難の時代を経て、島根県下第一の豊かな地域となった。その象徴である築地松は、数百年におよぶ人と厳しい自然とのたたかいの結晶といえる。ところが、人の生活が豊かになったのに反して築地松は松くい虫被害、酸性雨、さらには屋敷内増改築や松の維持負担に耐えかねて、破損が激しくなった。1994年出雲平野全域調査では、絶対本数40,378本のうち、伐木数19,431本 、1戸あたり平均4.27本の伐木で、防風機能を残す農家は4,117戸。今、私たちは築地松の破損の状態を食い止め、守り育てることを真剣に考えなければならないのだ。

島根大学名誉教授
岡山商科大学教授　野本　晃史

●協定代表者に聞く

暮らしの中で　先祖の心意気を伝える築地松

池田　恭治さん(大社町大字北荒木在住)

池田さん宅の築地松は、約300年前大梶七兵衛によって開墾された当地へ、斐川町から移り住んだ先祖によって植えられたのだそうだ。3列に植えられた松は、強風から家を守りながら立派に成長したが、下枝がなくなって登りにくくなり、陰手刈り職人ですら剪定作業を拒んだ。池田さんは悩んだ末、出雲市森林組合の協力で先祖代々の老木10本のうち5本を切り倒した。「ご先祖様もあきらめらいたと思うようにしとりますわ。」その後先代が植えた若松が育ち、現在では緑豊かな築地松が復活しつつある。「松の世代交代時期だったんですわ。」300年の歴史を刻む松と先代の松の高さが揃う日が楽しみだという池田さんは、我が築地松への思いを通じて、協定地区全体にも心配りをたやさず、近所への情報提供など労を惜しまない。そして新天地をもりたててきた先祖の意志を継ぐように、この地と築地松を見守り続けている。

雄々しい老松と、それを追いこさんとばかりに成長を続ける若松が並ぶ様は、まるで松の親子のようだ。老いも若きもしっかりと池田さん宅を守っている。

ついじまつレスキュー隊

松くい虫を防除する(5)
―松くい虫を診断する―

8～10月、枯死したマツには多くのマツノマダラカミキリ幼虫が寄生します。この時期に枯死したマツの駆除は特に重要なのです。松くい虫(マツ材線虫病)で枯れたマツの樹皮下にいる病原を媒介するマツノマダラカミキリの幼虫を駆除して数を減らし、次の年の伝染を少なくして被害の拡大を防ぐのが駆除の目的です。8月以降に枯れ始めたマツを伐り倒します。枝は切り払い、幹は1～2mに玉切ります。そして焼却、くん蒸、薬剤散布などを行い、樹皮下、材内にいる幼虫を殺虫します。

1.焼却
カミキリ成虫が 枯れマツから脱出する前の 翌年5月までに枝の部分を含めて焼却します。太い幹の部分でも3cm は炭化させます。広い安全な場所でおこなって下さい。

2.くん蒸
玉切りした丸太と 枝部を 積み上げ、NCS、キルパーなどくん蒸剤を0.5～1//m^3 (シートで覆った内容積)散布してポリエチレンシートなどで覆い、1～2週間密封しておきます。

3.薬剤散布
1.5cm以上の太枝と丸太表面にスミパイン乳剤(希釈倍数50～150倍)、マウントT-7.5B油剤(原液のまま)などの殺虫剤を400～600cc/m^2むらなく散布します。カミキリ幼虫が越冬のため 材内へ 穿孔する前の10月までの実施が効果的です。 油剤の使用は 火気に注意してください。他にチップ工場へ材を運んで砕いてしまう破砕があります。いずれの方法もその地域全体で実施するのが効果的です。

築地松伝言板

ついじまつレスキュー隊

愛称決定！

たくさんのご応募の中から、斐川町の後藤順子さんの「ツイッキー」、「ジッキー」、「マッキー」、三人あわせて「ツイ・ジ・マツ(築地松)」に決定。後藤さん、すてきな名前をどうもありがとう。
出雲平野のどこかで僕たちをみかけたら、声をかけてネ。

ホームページアドレス
http://www.pref.shimane.jp/section/keikan/

1998.9. 水7号

～築地松景観保全対策推進協議会からのお知らせ～

陰手刈りさん を紹介します。

当協議会では、毎年、陰手刈りを行ってくださる「陰手刈りさん」を紹介しています。平成10年度は42名の陰手刈りさんにご協力をお願いしたところ、17名の陰手刈りさんの承諾をいただきました。自宅の築地松がそろそろ剪定時期をむかえられている皆様、是非、連絡をされてみてはいかがですか?
なお、当協議会では斡旋・お取次ぎは一切できませんので、ご了承下さい。

氏　名	郵便番号	住　所	電話番号	陰手刈りを行う期間	陰手刈りに行ける地域
金本武夫	693-0031	出雲市古志町996	0853-24-3528	年中（梅雨時はのぞく）	出雲市、平田市、斐川町、大社町
拓植観象園	699-0822	出雲市神西沖町479-2	0853-43-1882	1月～3月	出雲市、平田市、斐川町、大社町
出雲市森林組合	693-0213	出雲市朝山町1314-1	0853-48-2103		
遊木恒夫・稔	693-0005	出雲市天神町307-12	0853-22-3543	春・秋	出雲市
中湯忠吉	693-0006	出雲市白枝町814-3	0853-23-4043	年中	要請による
福田喜義	693-0054	出雲市浜町871	0853-23-4838	4月～7月、9月～10月	出雲市
宮本光敬	693-0067	出雲市矢尾町614-1	0853-24-1609	年中	出雲市、大社町
若槻文夫	693-0067	出雲市矢尾町630	0853-24-1342	1月～4月	出雲市、大社町、斐川町
福代梶正	693-0067	出雲市矢尾町下沢175-27	0853-24-2026・1449	3月～7月、9月～11月	出雲市
井元久二	699-0751	簸川郡大社町杵築西2524-7	0853-53-0350	年中	斐川町、大社町、出雲市
上田　忠	699-0721	簸川郡大社町大字修理免1405	0853-53-2708	春	大社町、出雲市
永岡勝蔵	699-0732	簸川郡大社町大字入南476-2	0853-53-1800	2月～12月	大社町、出雲市
長廻　浩	699-0731	簸川郡大社町遥堪1165	0853-53-1624	3月～4月、9月～11月	出雲市、大社町、斐川町
錦織　進	699-0554	簸川郡斐川町三分市116	0853-62-4264	1月～5月、10月～12月	斐川町、出雲市、平田市、大社町
坂本芳友	699-0643	簸川郡斐川町大字原鹿453	0853-72-3474	主に春	斐川町近隣
樋野良吉	699-0502	簸川郡斐川町大字荘原町3420	0853-72-3233	1月～4月	斐川町、出雲市、平田市
石原勝之	691-0003	平田市灘分町2620	0853-62-3983	年中	平田市、出雲市、斐川町、大社町

ついじまつ ギャラリー GALLERY

「里の秋」

鶴原　勲（洋画家）

行動美術協会展入選、島根洋画会会員、県展審査員、よみうり出雲文化センター講師。ここ数年は個展中心の活動を意欲的に行い、多くのグループ展にも参加。斐川町出西在住。

猿岩石、陰手刈り体験ルポ！

7月3日、快晴。吹き渡る風が強い出雲平野の午後。築地松の向こう側から、底抜けに明るい若者の声が聞こえてきた。のぞいてみると慣れない手つきで松を刈ろうとしている若者と、傍らで励ますもう一人の若者を発見。若い陰手刈り職人の誕生？ いえいえ、その２人はタレントの猿岩石だった。彼らはＴＶ番組の取材でこの出雲平野の築地松風景を取材に訪れ、陰手刈り職人石原勝之さんの指導のもと、築地松の陰手刈り作業に挑戦しているのだ。

（左）猿岩石・森脇さん　（中央）陰手刈り職人　石原勝之さん（右）猿岩石・有吉さん

猿岩石プロフィール
猿岩石　有吉 弘行（ありよし ひろいき）　森脇 和成（もりわき かずなり）
タレント　広島県生まれ。平成6年コンビ結成後、TV・ラジオで活躍中。
平成8年日本テレビ「進め!電波少年」でユーラシア大陸をヒッチハイクで横断。野宿、アルバイトを繰り返しながら約35,000kmを旅する姿が多くの人に感動を与え、同年ゴールデン・アロー賞話題賞を受賞。著書に「猿岩石日記」「猿岩石日記2」他多数。「白い雲のように」他多くのヒット曲を持つ。平成9年映画・ライブに挑戦。平成10年NHK連続テレビ小説「天うらら」に出演。

陰手刈りを終えた感想は？

有吉:怖かった。風があって梯子がしなるとバランスを崩すから、しがみついて力任せに松の枝をたたくんだけど、だめなんだ。簡単、簡単なんて言ってたけれど、本当はすごく難しいんだ。師匠の石原さんはというと、僕より高いところにいてスイスイと枝をたたき落としていくんだよ。すごい。

森脇:僕も間近に見ていて、その大変さは良く分かったよ。機械を導入したり、別の方法なんてないものかな。

有吉:いや、人の手でやるということがいいんじゃないかな。今のままが素敵だよ。人の技のすごさだからね。

森脇:陰手刈りさんって、このあたりでは何人ぐらいいるんですか？

40人ぐらいです。

森脇:築地松はどのくらいあるのかなあ？

3,000～4,000戸ぐらいでしょうか。

森脇:職人さんは足りているのかな？

有吉:石原さんと陰手刈りの後継者について話したんだけど、なかなかなり手がないらしいよ。

有吉・森脇:残念だよね。このすごい技は後世に伝えなくてはね。大変でしょうけれど。僕たちを「何だ、これは。」って驚かせて、「ああ、ここにやってきたんだ。」って実感させてくれた築地松と築地松のある景観を残していくためにもね。心から応援するよ。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課　〒690-8501 松江市殿町１番地　電話 0852-22-6143
島根県出雲総務事務所　〒693-8511 出雲市大津町 1139　電話 0853-23-1515
出雲市建設事業部建築課　〒693-8530 出雲市今市町 109-1　電話 0853-21-2211
平田市建設経済部農山漁村課　〒691-8601 平田市平田町 951-1　電話 0853-63-3111
斐川町企画財政課　〒699-0592 斐川町大字荘原町 2172　電話 0853-73-9211
大社町企画課　〒699-0792 大社町大字杵築南1395　電話 0853-53-3112

表紙写真撮影　「秋の里」佐藤　秀夫（出雲市）　71年間、出雲平野を走り続けた一畑電鉄のデハ6号は今秋、その役目を終え「さとがた保育園」(出雲市)に展示される。子ども達に”夢を運ぶ電車・デハ6号”誕生だ。